



霞ヶ関中だより

＜学校教育目標＞自主の誇りをもち、未来を拓く力を持った生徒の育成
＜1月の生活のめあて＞しっかりとした決意や抱負を持って、新しい年の
出発のしよう。

1月号 令和8年1月9日（金）



ありがとうの気持ちが溢れる3学期に

校長 守岡 信一

令和7年度も残り3か月となりました。まだまだ気温の低い日が続き、感染症対策では日頃からの体調管理が欠かせません。今後も生徒の安全を第一に、教育活動を進めてまいります。保護者・地域の皆様には引き続き、ご理解とご協力をどうぞよろしくお願ひいたします。

始業式では、生徒達に次のような話をしました。

1年間の総まとめとして、3学期は「ありがとうの気持ちが溢れる」あったかい学期にしてほしいと思います。普段、ありがとうという気持ちになるのはどんな時ですか？ 意識をすれば、授業中、部活動中など、小さなありがとうが周りにはたくさんあるはずです。3学期には三送会、卒業式、入試など感謝を伝える機会もまだまだあります。その環境をあと3か月で、みんなで作ってほしいと思います。これは、目指す生徒像の「人を尊ぶ」（相手や自分を大事にする）ということにも繋がります。

私が冬休みに読んだ本を紹介します。「宙わたる教室」という、科学をテーマにした小説です。小説の舞台は東京の定時制高校です。（夕方から授業が始まり、夜9時くらいから部活動を行う学校）登場人物には、40代の主婦、中学卒業後から働き続けてきた70代の男性、病気で中学校にあまり行けなかった16歳女性など、年齢や経験も違う人達が同じクラスで学び合うという話です。

私が小説の中で印象に残った言葉に、「どんな人でも、その気にさえなれば、必ず何かを生み出せる。」というものがあります。

みなさんは可能性のかたまりです。しかし、その気になって、本気で頑張るのは大事なことですが不安のない人はいません。そんなときには、周り（クラスの仲間、親、先生など）を頼ってもいいと思います。

始めに、ありがとうの気持ちが溢れる3学期にしてほしいと話しました。つらい時に、助けてもらったら、ありがとうと言えばいいし、言われた方は、「こちらこそ」って返せばいい。この小さな積み重ねが、大事だと私は思います。みんなの力であたたかい霞中を作っていくましょう。